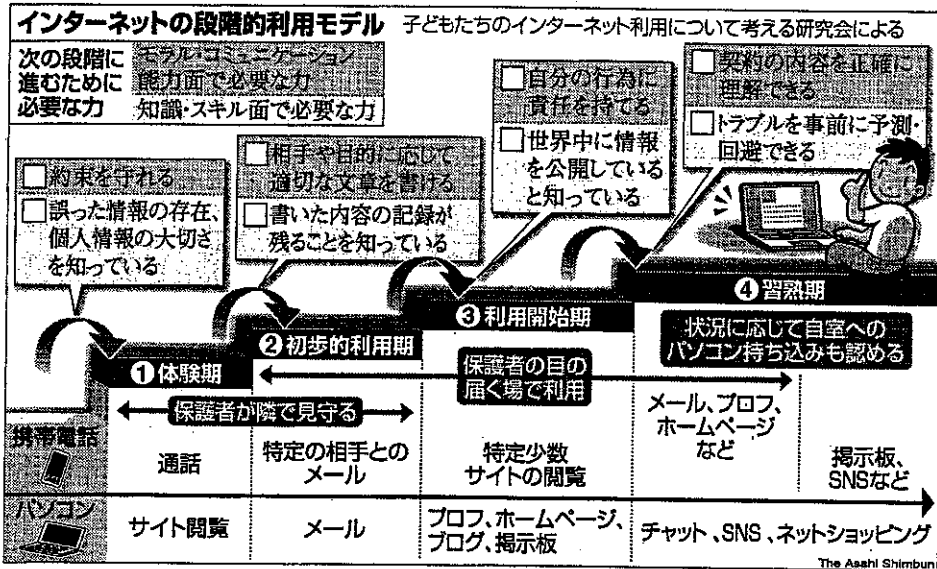


# どうする

## 思春期のネット利用②



# 判断力見極め段階的に

子どもがインターネットの利用を始めるときは、車の運転と同様に、大人が助手席で見守りながらルールを教えたい。

「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」（座長＝坂元章お茶の水女子大教授）が提案する「段階的利用」は、そんな考えに基づいている。

子どもの成長に応じて利用の範囲を広げ、一定の能力を身につけたと判断したら、次の段階へとステップアップする。

子どもの成長度合いは一人ひとり異なる。だから、各段階の到達年齢は示されていない。ただ、研究会の事務局は「高校卒業まで厳しく制限するのは行き過ぎ。ネット上のリスクに接したことがない、進学や就職で親と離れたときに、大きなトラブルにあいかね

だ」と助言する。

研究会の考え方はこうだ。ネット利用を始める前に、約束を守る力や、大人に相談できる力や、大人におく。ネット上には危険なサイトや誤った情報が存在すること、個人情報の大切さも教える。そのうえで①体験期に入る。

②初歩的利用期に入るには、相手や目的に応じて、適切な文章を書けることが前提だ。家族や親類に手紙を書くなどして、読み手の気持ちに配慮した文章を書ける力を養っておきたい。

③利用開始期に入ったら、パソコンに限って、自分のブログ（自己紹介のページ）やブログでの発信を認める。閉鎖性が高く、見守りにくい携帯電話からの発信は④習熟期まで待つ。

不特定多数が閲覧するブログに個人情報を書いてしまうと、見知らぬ人、悪意のある人から接触される可能性もある。ネットに情報

を書き込むことは、世界中に公開することだと知っておきたい。限られた文章で意思を伝えるのは、大人でも容易ではない。誤解されたりトラブルにつながったりしたときに、子どもが冷静に対応できるかも見極めたい。

リアルタイムでやりとりするチャットや、ネットショッピングは習熟期に。ネットで購入する際には、契約とは何を意味するかなど、法律の知識も必要だ。

また、図で紹介したチェック項目は一部に過ぎない。詳しくは研究会のサイト（<http://www.child-safenet.jp/>）を参照。

「段階的利用」は、あくまで一つの目安。一方的な押し付けは禁物です。親子の会話のヒントや、すでにネットを利用している場合の対応策についても後ほど報告します。次回はアクセスを制限するフィルタリングについてです。

（杉原里美）